

資料①

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

岩手県二戸市
が応援するふるさと名物

「浄法寺漆」
～漆と地酒(W-japan)と伝統食～
五感で堪能する
二戸物語(Story)



ふるさと名物応援宣言

国内シェア7割以上の生産量を誇る「浄法寺漆」＝japanは、世界文化遺産に使用されるなど、日本の文化を支えています！

岩手県二戸市
平成27年9月14日

地域のプロフィール

◆自然・歴史・文化

岩手県二戸市は、折爪馬仙狭県立自然公園をはじめ、稲庭岳、金田一温泉など豊かな自然環境に恵まれ、北上山系、奥羽山脈に囲まれた盆地で日中の寒暖差が大きい特徴を持ち合わせており、漆や果樹の生産に適した地域です。

当地域には、縄文時代の遺跡からも伝わるように、古くから生活に根付いた漆文化が存在し、時代の変革にも左右されず、漆の滴のごとく脈々と受け継がれ、今でも国産漆の約7割を生産しています。

また、夏吹き降ろす“やませ”の影響により、古くは米が作り難かったことから、そばやひえ、あわ、きびなど全国有数の雑穀の産地となっており、多彩な食文化が今に伝えられています。

平成25年からは、世界の流行の中心といえるニューヨークで、漆や地酒などの「にのへブランド」を発信・展開し、国内外に二戸の誇る漆や食文化とその背景にある人と物語を伝えています。



浄法寺塗の起源とされる古刹、八葉山天台寺



一面に広がるそば畑

ふるさと名物の内容

◆日本文化を支える浄法寺漆(japan)

二戸市は、国内最大の漆産地であり、漆はもとより木地の製作、塗り、そして漆器の販売まで一貫した生産体系を保ってきました。「原料から製品まで」生み出せる地域は他にはありません。

二戸市で採取される浄法寺漆は、鹿苑寺金閣の修復にあたった名工をして「職人冥利に尽きる」と感嘆させた程で、国宝建造物などの修理に欠かせないほか、人間国宝をはじめとする漆芸家からも高い評価を得ています。

日本の文化を支えている国産漆ですが、国内で流通している漆の97%以上が輸入品で、国産漆はほんの僅かにすぎません。日本の風土の中で育まれたこの貴重な漆は、日本の伝統文化の中で、その魅力と特性を活かしながら、未来への贈り物として後世に伝えていくものです。

これまでも、漆産業の振興や漆文化の継承に努めてきましたが、平成27年に文化庁が、「国宝や重要文化財の建造物を修理する際には、国産漆を使用する」との方針を決定したことで、これまで以上に浄法寺漆を核とした取組みへの期待が高まっています。



漆の採取風景



浄法寺漆は、主成分であり“艶”の根源でもある「ウルシオール」の含有率が高く、良質な漆として知られています。

浄法寺漆に関連するふるさと名物の内容

◆ 「漆」文化とともに地域に根付いた地酒(japan)と伝統食の発信・交流

浄法寺塗は、古来から酒器としても活用され、日本酒との相性も抜群です。また、漆器の口当たりのよさを見直す動きや、地元産の器で地酒を飲むという、ワインなどの世界では昔から器と酒は密接な関係にあったことから、二戸市では浄法寺塗とともに味わう地酒南部美人の味わいを提案しています。

㈱南部美人は、地元産酒米による地酒づくりをすすめており、平成13年より、関係機関と連携し「酒米研究会」を結成。岩手県オリジナルの酒造好適米「ぎんおとめ」を使った日本酒の開発に努め、県内外の鑑評会で多数の賞を受賞。現在「ぎんおとめ」の生産面積は20haまで拡大しています。

平成15年度からは、二戸の雑穀文化を伝承する「御法度の会」などと連携し「穀彩王国ミレットフェア実行委員会」を設立。「酒のオーナー制」とともに、稲刈りや酒の仕込み、そば打ちなどの体験型観光を展開。県内外の日本酒好きな大人はもちろん、田んぼには子どもたちを呼び込み交流を図ってきました。

㈱南部美人は、平成21年度農商工連携促進法総合化計画の認定を受け、地域内外の農業者との連携を図りながら、農商工連携及び地域の6次産業化を牽引しています。

また、同社は、平成9年から「日本酒輸出協会」のメンバーとして同協会活動を通じ、広く「日本酒文化」を世界に発信し、現在、24カ国に輸出。日本の米作りから酒造り、食文化、それに伴う器（漆器の杯や食器、箸等）や伝統文化等を広く発信し支持されています。



岩手発の酒米「ぎんおとめ」



穀彩王国ミレットフェア実行委員会での稲刈り体験

二戸市の取組み

○漆文化の継承と人材育成

漆の安定生産と漆文化の継承のため、漆苗木の購入助成や漆掻き研修生の受入れ、塗師の育成・起業支援を実施しています。

○浄法寺漆のブランド化

採取時期や漆掻き職人名などを漆樽に表示する「浄法寺漆認証制度」や地理的表示保護制度（GI）への申請支援。「滴生舎」での浄法寺漆100%の漆器の製造・販売、体験受け入れや漆塗り助成、漆器購入補助、漆器貸出により「浄法寺漆」のブランド化に努めています。

○漆と二戸の酒・食の海外発信

平成25年から「にのへブランド海外発信事業」を展開。ニューヨークで浄法寺塗を使って地酒を飲むという日本文化を提案し、浄法寺漆と地酒を中心にした特産品の海外展開を支援しています。

○連携・交流の推進

芸術大学などとの連携による漆の使い手と生産者の交流を進めるとともに、漆器を使った伝統食の提供など地域住民との交流も進めています。



浄法寺漆の認証マーク



ニューヨークでの漆塗りの実演

今後の展開ー1

■ 漆 (japan)の郷創りプロジェクト

(1) 漆の匠認証制度(仮称)の創設

ウルシの木の栽培管理や漆掻きを行う「漆作匠」、浄法寺塗をはじめ漆を使ったクラフトの創作を行う「漆創匠」、漆文化や歴史などを伝える「漆伝匠」を育成していきます。

(2) 漆ミュージアム化の推進

ウルシの木や漆掻きの様子を見学・体験できる漆林や漆の歴史・文化を伝える資料館、漆芸体験ができる「滴生舎」をつなぎ、地域全体で漆のミュージアム化を進めていきます。

(3) 漆の利用拡大・推進

市内のホテル・旅館や飲食店、家庭での浄法寺塗の利用拡大を図るとともに、被服や装飾品などへの漆の活用を進めていきます。

(4) 連携・交流の拡大

芸術大学や他産地をはじめ、研究機関や民間企業とも漆を核に連携し、生産者や地域住民との交流拡大を進めていきます。

(5) 2020年東京オリンピックメダル「漆」採用

漆=japanの名の元に世界へ発信するため、オリンピックメダルへの「漆」採用に向けて行動を進めていきます。



浄法寺漆に拘った漆器を展示販売している滴生舎。浄法寺塗の工房も兼ねています。



家庭での利用拡大も図っていきます。

今後の展開－2

■にのへ食観連携プロジェクト

ワイン文化になぞらえ、二戸の米や農産物の生産の背景、生産者の想い、歴史、伝統、技術、それに関連する浄法寺塗といった日本（二戸が誇る）ならではの伝統工芸、伝承され生活の中に根付いた伝統行事や食文化などを伝え、生産とのふれあい・交流やSNS等を介した“日頃のつながり”などを通じて“五感で堪能頂く”仕組みづくりに取り組んでいきます。

■にのへ型テロワール・プロジェクト

東北・日本酒テロワール・プロジェクト(農林水産省)や東北酒蔵街道(経済産業省)、酒蔵ツーリズム推進協議会(観光庁)の取組みに連携しながら、二戸ならではの農林水産業者、食料品製造業者、観光業者等の連携を進め、伝統文化を背景とした物語のある商品やサービスを提案していきます。



国内生産量3位の肉用鶏(二戸は11%)をはじめとする三大ミート(豚・鶏・牛)、冬恋(りんご)カシオペアブルー(ブルーベリー)、紅秀峰(さくらんぼ)など魅力的な食材も豊富です

市長からメッセージ

二戸市は、国産漆の日本一の生産地であり、漆の採取から漆器の生産まで一貫して生産できる希少な地域です。

国産漆の需要が落ち込んでいる中、平成27年度から国宝建造物などの保存修理に国産漆を使うことが示されたことから、市場優位性が高まり需要の拡大が期待されています。

このように、地域を元気にする大きな可能性を秘めている漆関連産業の振興を図ることにより、後継者の育成・確保を図るとともに、地酒と伝統食を結びつけながら交流の促進と産業の振興、加えて、「漆(japan)＝二戸、地酒(japan)＝二戸」のイメージを国内外に浸透させることを目指します。

「漆」を核として、二戸ならではの文化・食・人を紡いだ「二戸の物語(STORY)」を国内外に発信し、市民がふるさとを誇りに想い、さらに後世につなぐ「宝」に磨き上げていくことを目的に、ふるさと名物として応援することを宣言します。

さらに二戸市は、次代の日本へ、そして世界へつなぐものとして、「漆」のユネスコ無形文化遺産登録を応援します。



二戸市長 藤原 淳